

様式1		令和4年度 学校評価表													令和4年4月22日				
学校教育目標		社会で通用する基礎・基本を磨き、 よりよい自分・学校・社会を目指す生徒の育成																	
a ミッション 【地域・社会における 本校の使命・存在意義】		地域に誇れる学校づくり ～ 地域からの期待に応え、期待を超える学校づくりを ～					a ビジョン 【実現しようとする 本校の将来像】		○オール因島南（学校・家庭・地域）で、連携・協働し、生徒を育む学校 ○学校・地域（ふるさと）を誇り、自分の生き方を見つめ直すことに繋げる学校 ○社会の変化に対応し、向上心を持ち、思いを実行に移せる学校								尾道市立因島南中学校		
評価計画							自己評価					学校関係者評価				改善計画			
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案				
						g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ						
育成する資質・能力 「基礎・基本の力」「思考力・表現力・対応力」「高い志とチャレンジ精神」	確かな学力の育成	本質的な問いを工夫し、授業をファシリテートできる教職員の育成。	【授業改善の推進】 ○授業のめあて、振り返りとゴールイメージを持ち、授業をファシリテートできる教職員の育成。 ○学習課題（ミッション）として本質的な問いを工夫し、生徒の意欲や探究心を高め、表現力を育成する。 ○タブレットと電子黒板を活用した授業づくりの推進 ○これらを活用した授業スタイルの確立	教師アンケート めあて・ミッションを常に提示 毎時間のふり返りシートの実施 週1回の電子黒板・大型ディスプレイの活用	100%														
				生徒アンケートQ1～10「〇〇の授業は、「できた」「わかった」と感じることもある。」と答えた生徒の割合（全教科平均） 【7月・11月実施】	85%														
		「社会で通用する基礎・基本」を身につけ、活かすことができる生徒の育成。	【基礎学力の定着】 ○単元テストの実施 ○「学びのサイクル」の充実・発展 ・授業と家庭学習と南中タイムと試験を連動させ、個別指導に丁寧に取り組む。 ○家庭学習習慣の定着 ・委員会による課題提出の取組 ・タブレットとクラスルームの活用	自主学習評価シートの週1回以上の活用	80%														
				単元末に単元テストの実施	100%														
				調査問題の全国の正答率以上 1年生：標準学力調査4月 2年生：標準学力調査4月 3年生：全国学力・学習状況調査5月	100%														
		学校・地域（ふるさと）を誇り、自分の生き方を見つめ直すことができる生徒の育成。	【ふるさと学の推進】 ○各教科、道徳、特別活動と総合的な学習の時間「ふるさと学」を関連させる。 ○学んだことを積極的に発信し、自己表現する意欲や力を高める。 ○南中タイムの表現活動の時間設定	生徒アンケートQ31「自分達の学んだことを人生や社会に生かそうと思う」生徒の割合【7月・11月実施】	95%														
	豊かな心の育成	常に向上心を持ち、実行できる生徒の育成。	【向上心・実行力の育成】 ○「特別な教科 道徳」の充実 『プラスワン作成・助言→取り組み・実践→自己評価・他者評価→反省・改善→新たなプラスワン作成』のサイクルの定着と充実に向けた指導を進める。 ○教材ごとに教材吟味シートで吟味を重ね、生徒実態を踏まえた道徳の授業づくりを進める。	毎月の「重点項目を守って生活している」生徒アンケート集計【毎月末実施】	90%														
				生徒アンケートQ23「みんなで何かに取り組み、やって良かったと感じることがある」と捉えている生徒の割合【7月11月実施】	90%														
		生活習慣の改善ときめ細やかな見取りと対応による不登校生徒の減少	【不登校の未然防止】 ○生徒理解・学級への帰属意識を高める集団づくりの推進 ・面談、アセス活用、学級経営の充実 ○不登校生徒への支援の充実 ・教育相談室生徒への計画的な支援 ・家庭連携の充実と、SCやSSWと連携した取組を進める。 ○全職員・全生徒の全員面接の実施	アセスの結果「友人サポート」と「教師サポート」の因子50以上の生徒の割合【7月11月実施】	70%														
				新たな不登校生徒を出さない。 （昨年度13人）昨年度不登校生徒のうち好ましい変化が見られるようになった生徒数の増加【毎月集計】	100%														
	魅力ある学校づくりと働き方改革の推進	働き方改革の意識を持ち、個々の教職員が業務改善に取り組むことで生徒が、生き生きと生活を送ることができる学校づくり	【働き方改革の推進】 ○働き方改革の意識向上 「自分も起点」という位置に立ち、協働して取り組む教職員組織の育成。 ○超過勤務時間の削減 ○退校時刻の設定と30分前の声掛け	働き方改革アンケート肯定的評価全項目の肯定的評価平均80%以上【毎月実施】【市：6月・11月実施】	80%														
				水曜日の定時退校日の実施	80%														
				時間外勤務月45時間以下を6カ月以上実施	80%														

【自己評価 評価】
A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80
B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】
イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。

【自己評価・評価】
A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80
B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】
イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。